

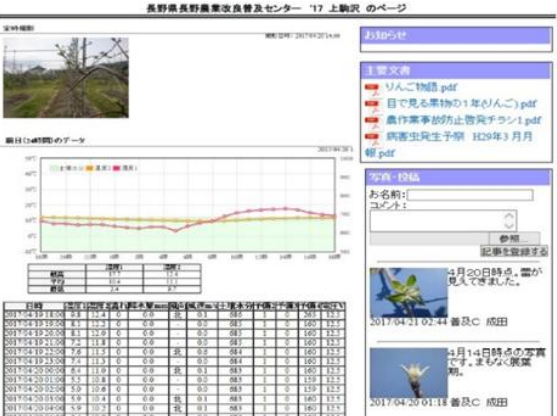
(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成30年5月11日

長野地域振興局

提出区分	実績						
整理番号	7	課題区分	C				
実施機関	長野農業改良普及センター			担当課	所属	長野地域振興局農政課	
事業名	長野果物語りで魅力ある地域づくりを目指す (稼げる技術習得支援)				電話	026-234-9534	
				E-mail	nagachi-nosei@pref.nagano.lg.jp		
事業概要	目的 (目指す姿)	多様な地域農業の担い手を確保・育成するため、従来の講座研修に技術実践型の研修やICT機器を活用した農業情報の配信を組み合わせ、新規就農者の早期技術習得を図る。また早期成園化が可能な栽培方法の実態調査と事例収集を行う。					
	現状と課題	農業改良普及センターやJA等で開催している各種品目の講座は、講義形式で行うのが一般的で、管理作業等の実技を伴わないため、営農に必要な技術の習得に時間を要することが課題となっている。また早期成園化が期待できる栽培方法として様々な事例があるが、各栽培方法の特徴をまとめた資料はなく、農業者が自分に合った栽培方法を安心して選択できない状況にある。					
	内容 (変更後の内容)	1 技術実践型講座の開催「短期習得実践道場」 ①講座の開催 りんご新しい化栽培及びぶどう短梢無核栽培 ②技術実践ほ場の設置 りんご及びぶどう 各1か所 2 ICT活用によるリアルタイムな情報提供と実践支援 ①定点カメラ撮影及び画像配信 4か所 ②定点気象観測及び観測値配信 2か所 3 早期成園化(半わい化)栽培の実態調査 ①県外実践事例の実態調査(2県)の収集					
	事業期間	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日					
	成果目標	「りんご新しい化栽培」及び「ぶどう短梢無核栽培」の技術実践ほ場の設置により、受講生自らが講座実施日以外でもほ場の観察や実践管理が可能とし、早期技術習得により「りんご新しい化栽培10名」及び「ぶどう短梢無核栽培10名」を育成する。また、県外のりんご半わい化栽培に係る先進事例を実態把握し、関係団体と調査報告を取りまとめる。					
事業費等	事業費	785,231 円 (単位:円)					
	節区分	主な内容	当初計画額 a	変更計画額 b	実績額 c	差引 b-c	備考
	8報償費	実践道場ほ場園主等謝金	44,000	117,893	117,893	0	
	14使用料	定点撮影カメラ、気象観測等機器リース代等	589,440	527,688	527,688	0	
	9旅費 (内部事務)	半わい化の県外実態調査旅費	0	138,000	138,000	0	
	11需用費	半わい化の県外実態調査レンタカー燃料代	0	1,650	1,650	0	
計		633,440	785,231	785,231	0		

	事業実績	事業の成果	評価
事業実績・成果	<p>1 技術実践型講座の開催 (1)りんご新しい化栽培(高密度植等) ・設置場所:長野市上駒沢 ・実践品種:「秋映」 ・道場生:農家子弟Uターン就農者等10名 ・開講日:平成29年4月25日 ・講座回数:7回、その他特別講座3回</p> <p>(2)ぶどう短梢無核栽培 ・設置場所:長野市真島町 ・実践品種:「シャインマスカット」 ・道場生:農家子弟Uターン就農者等6名 ・開講日:平成29年5月18日 ・講座回数:8回、その他特別講座3回</p> <p>2 ICT活用による情報提供 (情報集積場所の開設) ・「短期習得実践道場」Web上に専用の「情報集積場所」を開設し、各コーナーで技術習得支援 ①講座案内等の連絡 ②講座、各種技術資料の掲載 ③質問及び回答 ④実践ほ場の定点カメラ画像(2回/日)と気象</p> <p>3 早期成園化栽培の実態調査 ・県外で普及している事例の実態調査3ヶ所(秋田県・山形県) ・管内の実践事例の調査4ヶ所</p>  <p>(「情報集積場所」画像)</p>	<p>1 技術実践型講座及びICT活用による情報提供 ・道場生16名(りんご10名、ぶどう6名)が参加され、JA及び園主と連携してリアルタイムな講座や情報提供により、早期技術習得につながった。 ・道場生のうち「りんご新しい化栽培」へ6名、「ぶどう短梢無核栽培」へ3名が取組んだ。 ・Web上に講座資料や質問・回答を掲載し、スマートフォン等で自己ほ場でも確認できることから反復学習効果が高まっている。 ・習得度について、基本技術を9項目設定し、①全く理解できていない～⑤十分理解できたの5段階評価を、アンケート調査したところ、平均評価3以上の道場生は、りんごでは9名中7名、ぶどうでは6名中4名と、ほぼ順調に習得された。</p> <p>2 早期成園化栽培の県外事例の実態把握 ・県外事例をJAと連携して把握し、事例集(栽培目安)作成の基礎を取りまとめた。</p>  <p>(技術実践型講座の開催状況)</p>	<p>○ 期待以上</p> <p>● 期待どおり</p> <p>○ やや下回る</p> <p>○ 期待以下</p>
今後の方向性	<p>1 高品質・早期多収技術の短期習得講座による果樹担い手層の強化育成事業を平成30年度～31年度まで実施する。 (1)技術実践型講座の開催「短期習得実践道場」 (2)ICT活用によるリアルタイムな情報提供と実践支援 ※平成30年度からFacebookも活用し、動画配信や情報共有を更に進める。</p> <p>2 新たなりんご栽培方法の調査を平成30年度まで実施し、農業者向け資料を作成する。 (1)早期成園化(新しい化・半新しい化)栽培の管内実態調査と事例集の作成</p>		